

やさしい日本語普及活動で意識改革プロジェクト～実践活動報告書～

八代明恵（公益財団法人 豊橋市国際交流協会）

夏期研修Ⅱで設定した課題

日本語を学ぶ外国人と、一般の日本人の距離を縮め、日本人がもっと自然に寄り添える地域にする。
豊橋には、75カ国の外国人が住み、日本人がそれぞれに通じる言葉を身につけることはできない。
日本人側に、地域に住んでいる外国人と、どのように接し、話しかけたらいいかなど意識する人を増やす。
「やさしい日本語講座」の広報を依頼することで、関係機関にも意識をもってもらおう。

協会のやさしい日本語講師を担当しているので、協会講座や自主開催講座を行い、課題を少しでも解決する。一人で行うのではなく様々な分野の方と一緒にやっていく方法はないか考えてみた。

柱を二つに分ける

日常生活の中で交流を増やす

対象:特に小中学生を持つ世代
協会の講座に参加が少ないが、学校で外国人の保護者のコミュニケーションに困っていると聞く。

外国人が働く職場での会話を増やす

日本語学習者から:工場で日本人と朝夕の挨拶しかない。ほとんど日本人と話すことがない。
日本人から:外国人にどう話しかけたらいいかわからない。

① 「やさしい日本語×Canva で外国人と国際交流しよう(10月2回自主開催)

助成金授与:神野教育財団(やさしい日本語の普及活動の必要性を認められる)

講師:NPO 法人クオールの職員⇒以前のまちゼミ「やさしい日本語講座」の受講者(パソコン担当)

参加者:市役所職員⇒ボランティア養成講座「やさしい日本語」受講者 ベトナム人実習生⇒教え子

障害者施設職員⇒絵本展開催予定⇒展示会内で「やさしい日本語講座」開催を依頼される。⇒③参照
小学生⇒外国人と日本語で話すことができ嬉しい。

両親⇒学校や職場の外国人に日本語で話しかけてみようと思う。

公務員⇒広く皆さんに知ってほしい⇒子供会の行事で「やさしい日本語講座」を盛り込む提案⇒⑦参照

② 「やさしい日本語親子セミナー」の講師担当

主催:国際交流協会 場所:まちなか図書館内会議室

参加者:小学生の児童・生徒とその家族、日本語学習者、やさしい日本語講師、日本語教室ボランティア、豊川市国際交流協会職員、豊橋市多文化共生・国際課職員など (合計25名ほど)

講師補助:豊橋市国際交流協会 職員、協会に JICA 派遣のブラジル人交流員(日本語教師)

積極的に子どもの国際交流の機会を増やしてくれるようになった。

③ 世界の子どもの本展で『あきえ先生の「外国人と日本語で話すコツ講座」』開催

「みんなとちがうきみだけど」(英語版・日本語版)を読んだ後、「ハサミの法則」、学校や身近な外国人について、豊橋に住む外国人、イギリスについてなど自由に会話

参加者:イギリス人親子と市内の高校二年生3人

④ まちなか図書館での「出張まちゼミ 外国人と日本語で話すコツ学びませんか」

豊橋に住む外国人について、やさしい日本語のワークショップ「図書館への行き方・本の借り方」
参加者:予約なしで、図書館のチラシやインスタを見て、15名ほど参加。一般の方にも知ってもら
ういい機会。また、図書館で働く人にも見てもらえた。

⑤ 絵本で異文化体験「ランカ にほんにきたおんなのこ」

やさしい日本語普及応援をしてくださる店長のお店で気軽な読書会

参加者:やさしい日本語講座受講経験者、

日本語教育に興味のある子育て中の女性➡仕事の中で外国人の生活の手伝いをした。

【今後の予定】

⑥ 2月中頃、豊橋のブラジル人協会でのやさしい日本語講座依頼を受ける

➡市役所で外国人の通訳をしているブラジル人の方々向け。協会のブラジル人交流員からの推薦

⑦ 4月に市内で働く外国人と一緒に海の安全教室+やさしい日本語を計画中

共催者:市内の校区子供会、三河海上保安署

参加者:小学生と保護者、技能実習生など

小学生にもやさしい日本語の考え方を知ってほしい。

技能実習生の海難事故が多いので、日本の海を状況を知ってほしい。

活動後考えたこと

:①チラシ配布、SNS で発信したが結局口コミで知った方の参加がほとんどだった。

➡参加者の方は、やさしい日本語の大切さを理解し、次につながる仲間ができた。

②の主催者の協会が市の広報誌・市役所職員へのメール、小学生へのチラシ配布・SNS など、

私も自分のSNSなど、多くの媒体で発信したが、参加者がなかなか集まらなかった。

もっと多くの小学生家族に参加してほしいが、どのように呼びかけたら、その層の方に来てもらえるかわからない。➡しかし、市の職員の参加があり、異文化交流・やさしい日本語講座の大切さを分かってもらえた。

③参加の高校生は、小中学の時、外国人はクラスにいたが、外国人の大人と日本語で気軽に話せることがわかり、これからも機会がほしい➡機会作りのお手伝いができたらいい。

④予約なしの講座だったが、話を聞きたいと、わざわざ来てくれる方がいることがわかった。

⑤仕事上で外国人家族の手助けを頼まれたが、コミュニケーションの取り方で苦労した。どこに相談したらいいか分からなかったとのこと。➡国際交流協会の存在と役割、またそこで開催の講座の情報を、仕事や生活の中で、外国人とのコミュニケーションで苦労している人にどのようにしたら繋がれるか。一般の方にお知らせし、利用してもらうのにはどうしたらいいか。

※大きな講座などをするよりも、小さな集まりを開くことで、日頃から外国人とのコミュニケーションで問題を抱えている人と繋がって、少しずつでもやさしい日本語の考え方が広がっていくことも大切である。また、今は正式なコーディネーターではないので、困ったときにあの人に相談すれば、何か助けしてくれる、あるいはどこかに繋いでくれるという存在になればいいと思った。



外国人が働く職場での会話を増やす

日本語学習者から:工場で日本人と朝夕の挨拶しかしない。ほとんど日本人と話すことがない。

日本人から:外国人にどう話しかけたらいいかわからない。

企業向けのやさしい日本語講座を開催(令和5年4月2回予定)・開催にあつたての準備

① 協会の日本語教室ボランティアと学習者にアンケート実施

➡ボランティアは、教室外で外国人との交流が少ない

学習者は、日本人と職場で日本語で話す、少しわかる55%、
やさしい日本語での会話を望む人が70%いる。

② 市役所の多文化共生課の職員と意見交換➡市内で初期日本語教育の必要などが多い。

また、それに従事している人の繋がりが少ない。外国人と市民の交流が少ない。

子ども支援者、教育委員会、商工会議所担当者、企業などの他分野にわたる方々との意見交流会を提案。また、市民向けやさしい日本語講座の提案

③ 商工会議所総務部長に面談➡今まで企業に向けて外国人の就労について遠慮して聞くことがな

かった。今後、企業内だけでなく自分の身近に住む外国人について考えてみようとのことだった。

・市役所と商工会議所、協会で11月に市内の企業(4500社)に主に雇用している外国人従業員に対するアンケートを実施➡従業員の日本語学習支援や求める能力、課題や取り組みについても盛り込む。

・アンケートの中間報告(回収約15%)➡外国人を雇用している企業は、全体の二割。外国人を雇うことへの課題の1つは、外国人の日本語能力で高いレベルを望んでいる企業が多い。しかし、雇っている企業でもそのための対応は、ほとんどしていないようである。

・2月中旬に最終結果発表➡この結果を踏まえて協会の方と話し合い、企業向けの「やさしい日本語講座」内容を定める予定。

・協会担当者➡ターゲットは、主にこれからの担い手である20代、30歳代の社員ではどうか。

【その他】

・豊橋周辺で活躍している社会保険労務士・キャリアコンサルタント(豊橋市商工会議所、女性部会副会長)の女性と面談➡5月頃、モデル就労規則「やさしい日本語版」の勉強会・見直しを一緒にする予定。また、企業から外国人の日本語についての相談あれば、繋いでくださるとのこと。

・移住者人材バンクの代表➡金券ショップを経営➡やさしい日本語での対応を心掛けたい。

活動後考えたこと

・企業向けの活動については、まだあまり進まなかったが、協会ではやさしい日本語の担当している日本語教師が、この研修を受けていて実践活動をしていることを市役所の多文化共生課の方々、そのほか豊橋市で活動している方々にも知ってもらえたことは、今後の活動の元となると思う。企業で働く外国人側だけが日本語を学ぶのではなく、日本人の方も歩み寄りということ、これまで考えてこなかった企業に伝えるために協力してもらえると確信する。

研修期間は終わっても活動は続けて、さらに繋がりを広めて行こうと思う。